

この報告書は、災害教訓の継承に関する専門調査会の下に設けた小委員会において検討され、平成17年2月23日に開催された同調査会で承認されたものである。

執筆は、

- | | | |
|-------|-------|-----------------------|
| (主査) | 西山 昭仁 | 大谷大学大学院文学研究科 |
| | 東 幸代 | 滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科助教授 |
| | 北原 糸子 | 神奈川大学非常勤講師 |
| | 小松原 琢 | 独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員 |
| | 寒川 旭 | 独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員 |
| | 武村 雅之 | 鹿島建設株式会社小堀研究室次長 |
| | 水野 章二 | 滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科助教授 |
| (事務局) | 石井 晴雄 | 内閣府(防災担当)企画官 |
| | 久津摩敏生 | 内閣府(防災担当)企画官 |
| | 森安 秀和 | 内閣府災害予防担当 |
| | 池田 泰浩 | 内閣府災害予防担当 |
| | 浦川 稔弘 | 内閣府災害復旧・復興担当 |

の各委員が行い、担当は以下のとおりである。

はじめに(西山)

第1章 地震の特徴

第1節 地震被害の概要(西山)

第2節 どのような地震か ― 地震の震源と起こり方

- 1 活断層から見た地震像(小松原)
- 2 文献史料から見た地震像(小松原)
- 3 震度分布から見た地震像(武村)
- 4 琵琶湖周辺地域の地震活動と寛文近江・若狭地震(寒川)

コラム 江戸時代の時刻(西山)

第2章 葛川谷での被害

第1節 葛川の歴史的特色(水野)

第2節 町居崩れの発生(西山)

第3節 なぜ町居崩れが生じたか(小松原)

第4節 震災の影響(西山)

第5節 下流域での被害(西山)

第3章 琵琶湖沿岸での被害

第1節 琵琶湖西岸地域の歴史的特色(水野)

第2節 琵琶湖西岸での被害状況

- 1 堅田は地震で動いたか(北原)

2 大津での被害（西山）

3 膳所での被害（西山）

4 彦根での被害（西山）

5 大溝での土地の沈降（寒川）

第3節 琵琶湖沿岸でなぜ著しい被害が生じたか（小松原）

第4節 液状化現象の実態（寒川）

コラム 考古遺跡と琵琶湖周辺の地震の痕跡（寒川）

第4章 若狭国での被害・地変と震災対応

第1節 震災当時の小浜（東）

第2節 小浜の被害と人々の対応（東）

第3節 震災当時の三方地方（東）

第4節 どのような地変が生じたか——その様相と原因（小松原）

第5節 三方地方の被害状況（東）

第6節 浦見川掘削事業と新田開発（東）

第7節 寛文地震がもたらしたもの（東）

コラム 北陸地方の地震と津波（東）

第5章 京都での被害と震災対応

第1節 震災当時の京都（西山）

第2節 京都盆地での被害状況

1 京都盆地での被害と余震（小松原・西山）

2 新たに判明した伏見での被害（西山）

第3節 京都での幕府の対応（西山）

第4節 朝廷の対応（西山）

第5節 町人の対応（西山）

第6節 後世に及ぼした影響はあったのか（西山）

コラム 大坂（大阪）での被害について（小松原）

コラム 京都御所の地震殿（西山）

おわりに

1 双子地震と防災上の課題（小松原）

2 将来起こり得る京滋地域の地震とそれに対する備え（小松原）

3 巨大崩壊に対する急性期治療と慢性期治療（小松原）

4 寛文近江・若狭地震の教訓（事務局）

謝 辞

平成17年3月

内閣府政策統括官（防災担当）

本報告書のとりまとめは、みずほ情報総研株式会社に委託し、実施した。